中山間地域の買い物環境におけるドラッグストアの役割－石川県輪島市旧門前町を事例に－

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-07 キーワード (Ja): ドラッグストア フードデザート 高齢者 中山間地域 能登半島 キーワード (En): drugstore food desert elderly people mountainous and hilly rural areas Noto Peninsula 作成者: 広津留 正也, 手代木 功基, Masaya HIROTSURU, Koki TESHIROGI メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002002574

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

日本海域研究，第56号，1-11ページ，2025
JAPAN SEA RESEARCH, vol.56, p.1-11, 2025

中山間地域の買い物環境におけるドラッグストアの役割
－石川県輪島市旧門前町を事例に－

広津留正也[1]・手代木功基[2*]

2024年9月27日受付，Received 27 September 2024
2024年11月13日受理，Accepted 13 November 2024

The Role of Drugstores in the Shopping Environment of Mountainous and Hilly Rural Areas: A Case Study from Monzen-machi (former Monzen Town), in Wajima City, Ishikawa Prefecture

Masaya HIROTSURU[1] and Koki TESHIROGI[2*]

Abstract

In this research, we clarified the role of drugstores in the shopping behavior of communities in mountainous and hilly rural regions by focusing on the Monzen-machi (former Monzen Town) area of Wajima City, in Ishikawa Prefecture, as a case study. A field survey, questionnaire survey, and interviews conducted on shopping behavior and residents' perceptions in the study area revealed that drugstores in these mountainous areas play a specific role in providing physical goods, primarily foodstuffs. However, the opening of drugstores has also influenced residents' shopping behavior and perceptions. As small-scale supermarkets have been replaced by drugstores in the study area, opportunities to change where people shop or to build social connections through shopping have decreased. In mountainous and hilly rural areas where populations continue to decline and local stores are closing, the opening of drugstores that offer essential supplies, including food, is important for maintaining the residents' shopping environment as well as their options. However, several other factors also need to be carefully considered in this process.

Key Words: drugstore, food desert, elderly people, mountainous and hilly rural areas, Noto Peninsula
キーワード：ドラッグストア，フードデザート，高齢者，中山間地域，能登半島

Ⅰ．はじめに

中山間地域における住民の生活維持の方策を検討することは，過疎化・高齢化が進展する日本社会において重要である。中山間地域の生活を維持する上での課題の一つに，食料品の確保が挙げられる。岩間ほか（2020）は，買い物環境の実態調査から，中山間地域における自家用車を持たない住民の食料確保の難しさを指摘している。また，岡橋ほか（2015）は，住民同士が自動車の乗り合いで買い物を行っている事例から，買い物行動が住民同士のネットワークに支えられている一面があることを明らかにし

[1] 大分県立杵築高等学校　〒873-0014 大分県杵築市大字本庄2379（Oita Prefectural Kitsuki High School, 2379 Honjo, Kitsuki, 873-0014 Japan）
[2] 金沢大学人間社会研究域学校教育系　〒920-1192 石川県金沢市角間町（Faculty of Education, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
[*] 連絡著者（Author for correspondence）

た。他にも，薄井ほか（2021）が買い物環境における近居する子どもの支援の重要性を指摘するなど，交通手段や社会ネットワークが買い物環境に関わっていることが指摘されている。他方で向囿（2011）は，中山間地における生活インフラを支える存在として移動販売の重要性を指摘している。

しかしながら，中山間地域住民の買い物行動において，地域の実態に応じた多様な買い物環境を把握するためには，食料品販売を主としたスーパーマーケットや移動販売以外の業態にも着目していく必要がある。そこで本研究では，中山間地域における食料品の買い物先として，これまで十分に検討されてこなかったドラッグストアに着目する。

ドラッグストアは，近年全国規模で拡大している小売業態である。ドラッグストアにおいては，医薬品だけでなく，様々な日用品が販売されているとともに，近年では生鮮食品も含めた食料品を扱う店舗が増加している。例えば，2022年の商業動態統計によれば，ドラッグストアの商品別の販売額において，食料品は総販売額の約31%を占めていた。また，その割合は年々高まっている（重冨，2022）。ドラッグストアにおける食料品の取り扱いが増加しているのは，購入頻度の高い食料品を置くことによって来店頻度を高めるためである（重富，2014）。かつては，ドラッグストアで生鮮食品を扱うことは現実的でないとされてきたが，2012年に一部ドラッグストアチェーンが生鮮食品の販売を開始して以降，特に郊外で店舗を展開するドラッグストアにおいて，生鮮食品の導入や試行販売が進められている（重冨，2022）。こうした背景から，ドラッグストアが中山間地域の食料品調達のための買い物先として利用されていることが想定される。

また，ドラッグストアは，特にモータリゼーションが進んだ地域で経済規模以上に展開されており（駒木，2015），ドラッグストアの拡大が中山間地域を含む都市以外の地域にも及んでいる。ドラッグストアは，ドミナント戦略の強い業態であり，市場が飽和してきた2000年代以降には，各ドラッグストアチェーンの他チェーンへの買収，統合，業務協定などによって店舗網を拡大させた（駒木，2012）。中には，スーパーマーケットを買収する例も見られ，生鮮食品の強化を図るチェーンが生まれている（重冨・加藤，2016）。

そこで本研究は，石川県輪島市のうち合併前の門前町（以下，「旧門前町」と記載）を事例として，中山間地域においてドラッグストアが住民にどのように利用され，買い物先としてのドラッグストアがどのように認識されているのかを明らかにすることを目的とする。

調査地域を含む北陸地方は，物販5業態（家電量販店，ホームセンター，ドラッグストア，コンビニエンスストア，百貨店・スーパー）の売上高に占めるドラッグストアの割合が29.9%であり，全国平均の16.5%よりも大きい。また，北陸地方のドラッグストアの売上に占める食料品の割合も52%と全国平均の32%を上回っている[1)]。したがって，北陸地方では相対的にドラッグストアの利用頻度が高く，食料品購入の面で一定の役割を果たしていることが想定される。また，ドラッグストアは1店舗当たりの商圏人口が約4,000人とされているが（駒木，2012），対象とする旧門前町は人口が5,000人弱にもかかわらず，ドラッグストアが3店舗立地しているため，当該地域に着目した。

Ⅱ．調査地の概要

旧門前町（図1）は，輪島市の西部に位置している。かつては鳳至郡門前町として単独の自治体であったが，2006年に隣接する輪島市に合併した。輪島市門前町の人口は令和2年度国勢調査によると4,922人であり，そのうち65歳以上の高齢者人口は3,156人，高齢者比率は64.1%である。旧門前町を含む輪島市は，総務省が分類する過疎関係市町村において，全部過疎に指定されている。旧門前町内の就業者数は，1,015人であり，第1次産業が16.2%，第2次産業が22.2%，第3次産業が58.8%を占めている（令和2年度国勢調査）。

図2は旧門前町の人口分布を示したものである。旧門前町は，図1にみられるように中央部を除いて全体として山がちな地形であり，比較的平坦な中央部に人口の多くが分布し，西部の海岸線沿いにも集落がみられる。また，東部の山間地域では，山間部の谷を走る輪島市市街地と穴水町へ向かう道路沿いに人口が分布している。

旧門前町内に鉄道は走っておらず，公共交通機関はバスのみである。石川県の鉄道会社が運行する路

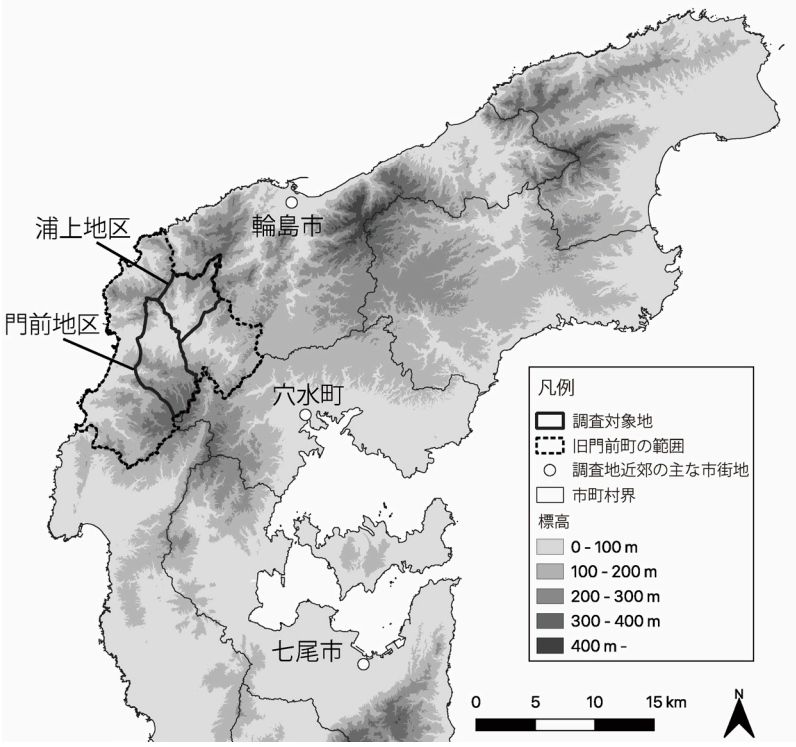

図1　研究対象地域．基盤地図情報により作成．

Fig. 1　Study area. Created using basic map information.

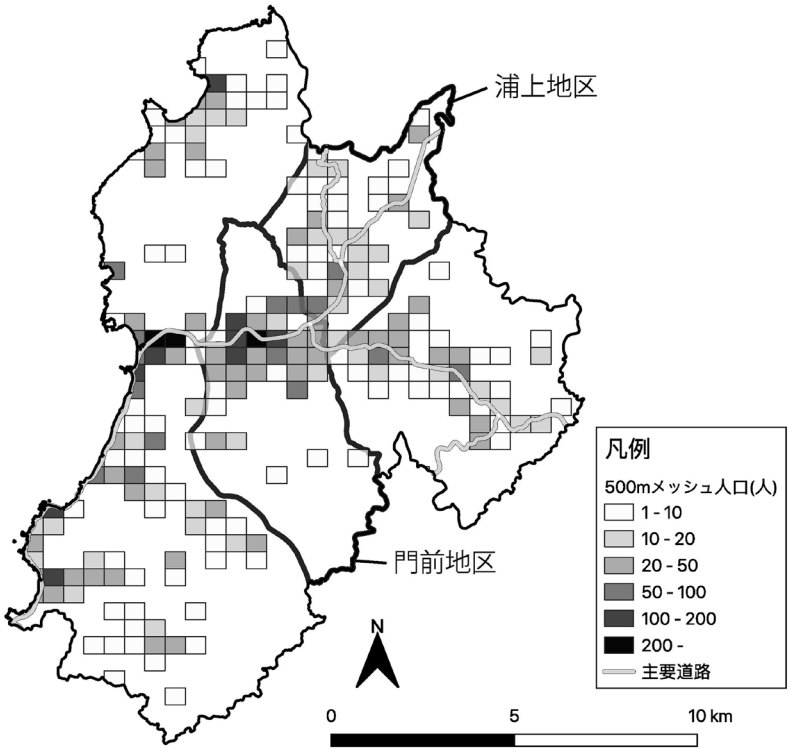

図2　輪島市門前町の500mメッシュ人口（2015年）．国土数値情報より作成．

Fig. 2　500m mesh population of Monzen-machi (former Monzen Town), Wajima City (2015). Created using National Land Numerical Information.

線バスは，穴水町と旧門前町を結ぶ路線と輪島市市街地と旧門前町を結ぶ路線の2路線が存在する。2023年におけるバスの運行状況は，平日と土曜日に運行するスクールバスを兼ねたコミュニティバスと，週に3日運行するコミュニティバスがみられた。

旧門前町には8つの地区があり，調査対象としたのはそのうちの浦上地区と門前地区である（図2）。浦上地区は，旧門前町の北東部に位置しており，地区内には個人商店が1店のみみられた地区である。門前地区は，商店街や金融機関，郵便局，図書館が位置する旧門前町の中心地であり，曹洞宗の總持寺祖院の門前町を起源とする地区である。単独自治体の門前町であった時代には町役場が位置し，現在は輪島市役所門前総合支所となっている。また，地区別の食料品店数が最も多い地区であった。

Ⅲ．方　法

現地調査は2023年11月から12月にかけて実施した。調査項目は，地域において主要な食料品の買い物先となっている店舗における食料品充足率調査と，住民に対する買い物とドラッグストアの利用に関するアンケート調査及び聞き取り調査である[2)]。

食料品充足率調査は，旧門前町内にある食料品を扱う11店舗と移動販売車3台を対象とした。食料品充足率は，岩間ほか（2018）が食料品店へのアクセシビリティを測る研究において用いており，健康的な食生活を送る上で必要な食料品の充足率を示した店舗ごとの指標である。そして，この指標は店舗での食料品の品ぞろえを示す尺度とみなすこともできる。本研究では，岩間（2018）によって日本人が健康的な食生活を送るうえで最低限必要であるとみなされた生鮮食品，加工食品，および調理済み食品別に作成された食品群の合計86品目のリストを用いて，各品目の店舗における販売の有無を記録した[3)]。そして，食品群別に確認された品目数をもとにして，店舗ごとの食料品充足率を算出した。

次に，アンケート調査は，浦上地区に居住する全233世帯と門前地区の商店街周辺の7地区に居住する全311世帯を対象として実施した。岩間ほか（2020）が実施したアンケートを参考に，生鮮食品・加工食品・日用品のそれぞれの買い物先や，世帯での自動車使用に関する質問項目を作成した。アンケートの配布は，浦上地区では郵送法で実施した。門前地区では公民館を通じて市報と共に配布する形をとった。2つの地区をあわせた配布部数は544部であり，そのうち有効回答は147部（回収率27.0%）であった。

聞き取り調査は，浦上地区内・門前地区内でそれぞれ実施した。浦上地区では，住民グループに所属する女性16名に対して座談会形式で2023年12月6日に実施した。門前地区では，地区の役員とその家族計11名（男性7名，女性4名）に2023年12月3日に座談会形式で実施した。座談会は，日常の買い物に関すること，スーパーマーケット・ドラッグストア・移動販売などの利用に関すること，買い物に関して不便に感じていること，地域の買い物環境の変化などについて，項目ごとに参加者に自由に発言してもらう形で行った。

Ⅳ．旧門前町の買い物環境

１）地域内の店舗の食料品供給機能

2023年12月時点で，旧門前町内で食料品を販売し，食料品充足率調査の対象となったのは，スーパーマーケット1店舗，ドラッグストア3店舗，コンビニエンスストア1店舗，個人商店2店舗，ホームセンター1店舗，道の駅等3店舗，移動販売車3台の計14事業者であった[4)]。

本稿では，食料品充足率調査とアンケート調査の結果から，スーパーマーケット1店舗とドラッグストア3店舗に関する結果を示した[5)]。なお，各店舗名はアルファベットと数字で表し，旧門前町内に1店舗あるスーパーマーケットをS1，3店舗あるドラッグストアをそれぞれD1，D2，D3と表記した。

１－１）スーパーマーケット[6)]

S1は，現在旧門前町唯一のスーパーマーケットであり，店舗の面積は約910㎡であった[7)]。S1では，店舗から離れた地域に住む利用者のための送迎バスを運行していたが，2023年11月上旬から運行を中止していた。表1に示した通り，S1の食料品充足率は，生鮮食品，加工食品，調理済み食品すべての区分で80%以上の高い値を示していた。したがって，S1の食料品供給機能は，地域において重要な役割を担っていると考えられる。

１－２）ドラッグストア

D1は，門前地区中心部の近郊に位置するドラッ

表1　輪島市門前町における主要店舗の食料品充足率．現地調査により作成．

Table 1　Food supply rate of major stores in Monzen-machi (former Monzen Town), Wajima City (%). Created through on-site surveys.

	スーパーマーケット	ドラッグストア		
	S1	D1	D2	D3
生鮮食品	93.9	87.9	63.6	15.2
加工食品	85.7	83.7	85.7	55.1
調理済み食品	100.0	100.0	100.0	0.0

グストアである。店舗の面積は約870㎡であり，2022年10月に開店した店舗である。旧門前町内のドラッグストアの中では，調査時に最も新しい店舗であった。店内の鮮魚コーナーには富山県に本社を置く会社がテナントとして入り，鮮魚の加工だけでなく，刺身や寿司，揚げ物などの惣菜を調理，販売していた。野菜と精肉は，自社で仕入れと加工を行った商品を販売していた。処方薬の取り扱いは行っていなかった。また，D1は，以前はスーパーマーケット（以下S2）であった店舗である。S2は，旧門前町を所在地とするスーパーマーケットであり，旧門前町に2店舗，穴水町に1店舗展開していた[8)]。D1の会社は，2021年5月にS2を買収し，吸収合併した[9)]。

D2も門前地区中心部から近い位置に立地するドラッグストアである。店舗面積は約650㎡であり，処方薬の取り扱いは行っていなかった。旧門前町内のドラッグストアの中では，2番目に新しい店舗であった。

D3は，商店街周辺から約2km離れた場所に立地している店舗である。店舗面積は，約970㎡であった。処方薬の取り扱いは行っていなかった。旧門前町内のドラッグストアの中では最も古い時期にできた店舗であり，調査時点で開店から10年以上の年月が経っていた。

ドラッグストアの食料品充足率は，店舗や食品区分によって差がみられた。D1の食料品充足率は，生鮮食品，加工食品，調理済み食品すべての区分で80%を上回っていた。したがって，スーパーマーケットと同程度の十分な食料品供給機能があるといえる。また，D2では，加工食品と調理済み食品は，80%を超えていた。一方で生鮮食品は，63.6%であった。これらの数値から，S1やD1ほどではないものの，D2にも一定の食料供給機能があるといえる。D3では，加工食品が40%を上回るのみであり，生鮮食品，調理済み食品はどちらも20%にも及ばなかった。したがって，D3は加工食品においては一定の食料供給機能があるが，生鮮食品と調理済み食品の食料品供給機能は担っているとはいえない。

これらの差が生じる要因として，生鮮食品と調理済み食品は加工食品に比べ品質の管理が難しいことが挙げられる。鮮度を保つための冷蔵・冷凍設備の有無や物流網，ドラッグストアチェーンの方針等により，店舗によって充足率に差があることが想定される。以上のことから，ドラッグストアは，スーパーマーケットと同程度の食料供給を担う場合もあるが，全てのドラッグストアが担えるわけではなく，店舗によって違いがみられることが明らかとなった。

２）住民の食料品店の利用

表2は，住民の主な買い物先を示している。まず，S1は，浦上地区と門前地区のどちらの地区においても，約90%の世帯に生鮮食品の買い物先として，また約70%の世帯に加工食品の買い物先として利用されていた。S1の食料品充足率の高さに対応して，多くの世帯において買い物先として利用されていることが明らかとなった。

次に，ドラッグストアにおいては食料品区分によって買い物先に違いがみられた。生鮮食品の買い物先としては，D1が多くの世帯に利用されているのに対して，加工食品の買い物先としては，D1とD2が多くの世帯に利用されていた。この結果は，それぞれの店舗の食料品充足率の多寡とある程度対応しており，スーパーマーケットと同様に，食料品充足率が高い店舗ほど食料品の買い物先としてよく利用されているという関係がみられた。

旧門前町外の店舗への買い物については，40%から50%の世帯が旧門前町外の店舗を利用していた。長野県上田市を対象地域とした先行研究（薄井ほか，2021）においても，調査対象とした17世帯すべてが

表2　食料品区分別の買い物先としての利用世帯数（複数回答可）．アンケート調査により作成.

Table 2　Number of households using shopping locations by food category (multiple answers allowed). Created through questionnaire surveys.

浦上地区						
買い物先	生鮮食品 利用軒数（n=84）		加工食品 利用軒数（n=73）		日用品 利用軒数（n=76）	
	（軒）	（%）	（軒）	（%）	（軒）	（%）
S1	76	90.5	52	71.2	20	26.3
D1	37	44.0	34	46.6	30	39.5
D2	19	22.6	28	38.4	23	30.3
D3	6	7.1	14	19.2	46	60.5
旧門前町外の店舗	42	50.0	38	52.1	29	38.2
門前地区						
買い物先	生鮮食品 利用軒数（n=61）		加工食品 利用軒数（n=56）		日用品 利用軒数（n=52）	
	（軒）	（%）	（軒）	（%）	（軒）	（%）
S1	55	90.2	39	69.6	14	26.9
D1	47	77.0	40	71.4	36	69.2
D2	25	41.0	33	58.9	36	69.2
D3	1	1.6	3	5.4	15	28.8
旧門前町外の店舗	28	45.9	21	37.5	15	28.8

食料品購入時に自動車を利用しており，高齢者が食料品の購入先として居住地区外の店舗に自動車で出向いている世帯もあることが示されている。旧門前町においても，旧門前町外の店舗を利用するためには現実的には自動車以外の交通手段では困難であるため，自動車の所持は住民の買い物行動の選択に影響を与えていると考えられる。

以上の結果から，本地域におけるドラッグストアは，店舗によっては食料品充足率が高いスーパーマーケットと同程度の利用状況がみられることが示された。ただし，全てのドラッグストアが生鮮食品や加工食品の買い物先として頻繁に利用されているわけではなく，食料品充足率の多寡に応じて利用されているという実態が明らかになった。

Ⅴ．住民からみた買い物先としてのドラッグストアの位置づけ

1）住民のドラッグストアの選択理由

聞き取り調査からは，住民がドラッグストアを食料品の購入先として利用する理由には，食料品充足率だけではない複数の要因が関係していることが示された。それは主に以下の2つに大別される（表3）。

1つ目に，買い物によって付与されるポイントが買い物先を選択する際の要因になっているという点である。ドラッグストアやスーパーマーケットには，店舗限定のポイントや全国の様々な店舗で使える共通ポイントなどが，購入金額に応じて付与されるという仕組みがある。例えば，表3中の発言1や5からは，D1において特定の曜日にポイントが5倍になることから，その曜日に選択的にD1を利用していることが読み取れる。こうしたポイント制度を活用することが店舗の選択理由の一つになっているといえる。

2つ目は，商品の価格である。例えば，D1の野菜が他店舗に比べて安いために選択しているといった発言や（表3発言4），D2においてペットフードが他の店舗よりも安いという発言がみられた（同6）。したがって，特定の商品の安さを理由として，店舗を選択していることが示唆された。また，年金を受給する世帯の住民にとっては，ポイントを含めた商品の安さが買い物先を選択する際に重要になっていることもわかった（同3）。

ドラッグストアは食品や雑貨の品ぞろえを強化し規模を拡大することで低価格の追及を図ってきた（駒木，2012）ため，一定の価格訴求力があるとみなせる。こうしたドラッグストアの特徴は，限られ

表3　ドラッグストアの選択理由に関する住民の発言．聞き取り調査により作成.

Table 3　Residents’statements on reasons for choosing drugstores. Created through interviews.

番号	発言者	内容
1	門前60歳台女性	結構，新聞チラシって有効で，D1さんが水曜日はポイント5倍とかで，するとS1ガラガラです。
2	門前70歳台男性	チラシが入るので，チラシの比較で買い物先を決める。富来は，だいたいここから24キロ，輪島市はスーパー行くと19キロ，穴水のスーパー行くと14キロ，チラシで値段と距離を考えていくわけです。富来のH，チラシで目玉があったら行きますよ。それでも，2，3千円くらいにならんと，（そこまで行って買い物をする）メリットがないですけど。
3	門前60歳台女性	S1は，（ポイントがお得な日が）土曜なんですよ。ポイントがある日が決まっているんですよ。そこになると買い物客が増えてくる。ポイントをためてお金になる。だから，ポイントが付く日にまとめ買いをしている人が多い。お年寄りの人がしっかり3倍5倍の日とか（いつがお得な日か）見て，まとめて買い物をしている人が多い。/（ポイントの重要性は，）年金暮らしになるとなおさら。限られてるお金の中で買い物してるから。
4	浦上70歳台女性	（D1は，）野菜が安いんです。野菜。D1行くと，他の物はあまり買わないんですけど，キャベツ，レタス，ブロッコリー，トマト，野菜系があそこがほかのお店に比べて安いかなと思って行ってます。
5	浦上70歳台女性	水曜日がD1さんは特売日なので，その日に行くことが多いです。
6	浦上70歳台女性	やっぱり私は，D2行くと小っちゃい犬がおるもんで，犬の餌がD2にあって，安いので，そのときに行って，ついでにハムとか野菜とか買ってきます。でも（ほとんど買い物先は）S1やね。
7	浦上70歳台女性	D1さんは，総合的に何でも買える，S2さんもそうでしたけど。

た生活費の中で買い物をする高齢者世帯が多い旧門前町の消費者ニーズに合っていると考えられる。

さらに表3発言7のように，ドラッグストアにおいてさまざまな商品を購入できる利便性への言及もみられた。ドラッグストアでの買い物の場合，食料品スーパーなどと比べると，1店舗内で生鮮・加工食料品だけでなく，医薬品や，日用雑貨品，ペット用品などもそろえることができる。そのため，1店舗で買い物が完結できる利便性があると想定され，このことは，商店種の少ない地域において自家用車でまとめ買いする住民にとって魅力になっていると考えられる。また，上記のようなドラッグストアの特性は，調査地域の比較的狭い範囲にドラッグストアが複数店舗立地する背景になっている可能性も示唆される。

2）ドラッグストアによるスーパーマーケット買収にともなう変化

旧門前町のD1によるS2の買収は，住民の買い物環境や買い物に対する意識において，変化をもたらしていた。表4は，S2からD1への変化にともなう，商品に対する評価について示したものである。ここでは，特に鮮魚と惣菜に関する言及が多くみられた。S2では旧門前町の漁港で獲れた魚介類を販売していたため鮮魚コーナーが充実していたが，D1になってから鮮魚の品ぞろえが減ったと感じている住民が多かった（表4発言1～3, 5, 7, 8）。D1では，テナントである富山県の企業が鮮魚の加工を行っているため，住民にとっては近隣の漁港で水揚げされた魚介類を消費する機会が減ったと考えられる。

惣菜に関しては，住民は，S2においては店舗内の調理場で作った惣菜に魅力を感じていた（同4, 7）。また，盆や正月といったハレの日に寿司などを注文する際にも，S2では細かい注文にも応えてもらえたと感じていた（同6, 8, 9）。他方で，現在のD1でも，店舗での惣菜の調理や寿司等の注文を受け付けるサービスは実施している。それにも関わらず，これらのサービスを知らない住民が一定数存在しており，S2からD1への変化によってD1の利用自体がなくなってしまった事例もみられた。これについては，D1が調査時点で開店から1年ほどしか経ってない店舗である点を考慮する必要があり，今後変化する可能性もある。しかしながら当時は，門前町外から新たにドラッグストアが入ってくることにより，地域に根ざしたスーパーマーケットに比べて心理的な距離が生じ，結果としてD1を利用する動機の減少につながっていることが推察された。

次に，表5は商品以外の変化について示したものである。S2のときには，店員も旧門前町の住民である場合が多く，お互いに面識があったことで，買い

表4　スーパーがドラッグストアに変わったことに関する発言（商品に関する内容）．聞き取り調査により作成.

Table 4　Statements regarding the change from supermarkets to drugstores (product aspects). Created through interviews.

番号	発言者	内容
1	門前70歳台男性	変わった。変わった。S2は，魚がものすごくメインやってん。S2は，鹿磯から（魚を仕入れていた）。
2	門前60歳台男性	昔は，（S2は，）地元の漁師から仕入れとったけえ新鮮やった。
3	門前60歳台女性	あれ（S2の魚）良かったねえ。
4	門前70歳台女性	弁当でもS2のときは，良かったよ。本当に今作ったんかなあって感じのがあった。
5	浦上70歳台女性	（D1は，）お魚類が少なくなったね。S2さんは，鹿磯港が歩いてすぐやったからね。新鮮なもの（魚）がたくさんあった。
6	浦上70歳台女性	S2のときは，わりに細かい注文も聴いてもらえた，っていうか，融通が利いた。例えば，「私，お寿司にしたいので，こんなものを，こんだけ用意してほしいげんけど。」って言ったら，（店員が）「分かった。」って言って。D1は，私，行ったことないので，そういう使い方したことないので，ちょっと気後れしてそんなこと言ったこともないですけど。やっぱり（S2は）地元のお店だったから，融通が利くっていうか，こっちが「こんなふうなことを」って言ってお願いしたらも応えてもらえた。大きいお店だと言ってもまごつくし。
7	浦上70歳台女性	S2の場合って，あそこの調理場で自社製で（惣菜などを作っていた）。今のそういうところっていうのは，どこからから作ったのが来ているのか，詳しいことは良くわかんらないんですけど。/D1で作ったんじゃない，どっかから作ったんじゃないかっていうのがある。並べさせていただいとるってだけで，店の調理場の自家製っていう感じは薄くなっとるんじゃないかと思います。/地元の鹿磯の，（魚が）そこから入るようなもので，新しかったんです，S2のお魚は。
8	浦上70歳台女性	（S2は，）生魚とか地元のものもあって。お盆とかお正月とか「何々作ってください」と言えば作ってくれた。今はしてくれるんかな。
9	浦上80歳台女性	前（S2）は，「刺身何人分で」とか言ったら作ってもらえよったけど，今（D1）はしてくれるんかね。

表5　スーパーがドラッグストアに変わったことに関する発言（商品以外の内容）．聞き取り調査により作成.

Table 5　Statements regarding the change from supermarkets to drugstores (non-product aspects). Created through interviews.

番号	発言者	内容
1	門前60歳台女性	（S2は，）地元の人ばっかりやったから，コミュニケーションもあったから，にぎやかやったんですよね。なんか買いやすかった。今は，ちゃんとレジがあって，自動でする，あんま喋らんで買い物するような時代やから，昔は「どれがおいしい？」とか話し合いながら買い物できたんですよ。それがなくなって今のお年寄りは寂しいやろうなあと思って。S2のときは，従業員の方は，地元の人。やから何言うも言いやすいし，にぎやかやった。（今は）便利やけど，さみしい。
2	浦上70歳台女性	私らが知らんだけかもしれんけど。S2におったお兄さんがそのままD1におることはおる，そういう人もおるね。やけど，S2におったけど，D1の研修受けて，S1のレジに入ったり，そういうふうにする人もおる。〇〇さんとか，皆月の△△さんとかね。S2においでたけど，S1のレジに入られとるね。そういう人がおいでれば，なんか安心やね。/S2におった人は，D1に採用されるために，しばらく研修期間みたいなのがあったんじゃないですか。しばらく行っとったんよね。年配の人にとってはやっぱりD1より，S1の（働く上での）システムの方が入りやすかったんじゃないですかね。
3	浦上70歳台女性	〇〇さんの場合は，研修するのが嫌やしすぐ働きたいって言ってS1に行ったんやわあ。
4	浦上70歳台女性	（D1は，）慣れないよね，店員さんが多いもんで，顔なじみなってないから。行かない自分が悪いのかもしれないけど，なじみ深くないので，D1さんは。/親しみがね。年数の問題もあるんやろうけど。/S1は昔からあるから，地元の人がレジしとったりなんかするから意外と楽なんよ。
5	門前60歳台女性	それに，S1もそうですけど，S2のときは送迎バスがあったけど，D1になってからはない。

物がしやすい環境だと感じていたことが表5発言1などから伺えた。そのため，店員も含めて店内でのコミュニケーションがあり，にぎやかな印象があったという。また，現在もあるS1に関しても，旧門前町に住む店員が多く，なじみ深いため，気兼ねなく買い物ができるようであった（同4）。他方で，D1はチェーンのドラッグストアであり，町外出身の社員が中心となって店舗を営業している。また，ドラッグストアでは医薬品を扱っているため，登録販売者の資格を持った店員が必要であるが，そのような人材は企業の中で育成される場合が多い。こうした背景から，ドラッグストアにおいては，スーパーマーケットと比較すると，地元の人が働くケースが限定される体制になっていることが推察される。

この点に関して，小金澤・小野（2015）は，高齢者の店舗選択行動を規定する背景の一つとして年齢や居住歴を挙げており，高齢で居住歴が長く，「なじみ客」となっている住民ほど特定のスーパーマーケットに利用が集中していることを指摘している。この先行研究と同様に，旧門前町でも昔から存在していたS1やS2の方がD1に比べて，住民からの愛着が形成されていたと考えられる。

また，買い物は，単に商品を購入すること以外の役割も担っている。例えば，行商の事例ではあるが，伊藤（2015）は，滋賀県高島市朽木における行商利用が，利用者にとって買い物手段としてだけでなく，雑談・相談の場としても機能していることを明らかにしている。他にも，磯野（2015）は，中山間集落の住民にとっての買い物の効用として，ものの購買と獲得のみでなく，買い物にともなう社会的つながりの機会となることを指摘している。それらの機能や機会のためには，ともに買い物をする住民だけでなく，顔なじみの店員の存在が欠かせないと考えられる。S2からD1へと変わったことによって，それまでのS2にはあった，買い物にともなう社会的つながりの機会や雑談・相談の場としての機能が薄れた店舗になっていたのではないだろうか。

また，S2からD1に変わったことでS2が運行していた買い物客の送迎バスがなくなった（表5発言5）。アンケート調査の結果からは，1割程度の世帯で自動車を誰も運転しないことが明らかになっており，交通手段が限られる世帯の買い物環境を維持していく上では，ドラッグストアの出店がマイナスに働いている可能性が推察された。中山間地域への出店が続くドラッグストアにおいて，このような環境にある消費者をどのように取り込むことができるかという点が今後の課題になると考える[10)]。

Ⅵ．おわりに

本研究では，石川県の旧門前町を事例として，中山間地域においてドラッグストアが地域の住民にどのように利用され，買い物先としてどのようにとらえられているのか，そしてドラッグストアがスーパーマーケットを買収したことによる変化を明らかにしてきた。

調査の結果，ドラッグストアは，一部の店舗において既存の業態であるスーパーマーケットと同程度の食料供給機能を持っていることが明らかになった。それにともない，スーパーマーケットと同じように食料品の購入先として利用されていた。ただし，特に生鮮食品の取り扱いについては店舗によって差があり，一部の店舗では，食料品の購入先としての機能を果たすには不十分であった。

したがって，食料品を中心とした物的供給の面では，中山間地域に出店したドラッグストアが一定の機能を果たすことができると考えられる。そして，年金を受給する高齢者世帯が多い旧門前町の地域特性をふまえると，低価格の追及を図るドラッグストアが行う特売日やポイント付与などの戦略が消費者のニーズと合致していると推察された。

充実した物的供給機能の一方で，ドラッグストアの出店によって住民の買い物行動や意識には変化がみられた。調査地においては，旧門前町やその周辺地域で小規模に展開していたローカルなスーパーマーケットが買収され，ドラッグストアとなった。それにともない，スーパーマーケットで売られていた近隣の漁港で水揚げされた新鮮な魚介類を消費することができなくなった。商品以外の面でも，地域の住民が店員として働くローカル資本のスーパーマーケットとは異なり，他地域出身の社員が営業を担うドラッグストアでは，店内での買い物を通した社会的な繋がりを得る機会が薄れるという変化がみられた。

人口減少やそれにともなう地域の商店の閉店が続く中山間地域において，食料品を含めた物的供給機

能を持つドラッグストアを出店することは，住民の食生活や買い物環境の維持において重要である。しかし，上述したように，住民の意識の面では，それまでのローカル資本のスーパーマーケットとドラッグストアは全く同じであるとは言い難く，ローカル資本のスーパーマーケットによる食料品供給機能とそこでの買い物を通して得られていた地域のつながりは，世帯によっては消失してしまったと考えられる。裏を返せば，地元で生産された食料品を売っていることや，買い物行動を通じた地域住民同士のつながりを得られることが，住民からみたローカル資本のスーパーマーケットの利点であるともいえる。ローカル資本のスーパーマーケットにとって，これらの点が顧客満足度を上げ，経営を維持し，生き残るためのニーズといえるのかもしれない。

駒木ほか（2008）は，従来の商店街とスーパーマーケットを比べ，必要な物を買うことと，人々が交流する場所という両方の機能を持った商店街と異なり，商業機能に特化したスーパーマーケットは，商店街を経験した高齢者にとっては「人間味に欠けた」場所であると指摘している。旧門前町では，スーパーマーケットにおいて得られていた地域のつながりが，ドラッグストアに移行にしたことによって薄れており，かつて商店街がスーパーマーケットによって淘汰されていったときと類似した変化が，ローカルなスーパーマーケットとドラッグストアの間で起こっているのではないだろうか。一方で，スーパーマーケットという業態であっても，地方では人々が交流する場所になっていたことを鑑みれば，現在は地域とのつながりが欠けているとみなされたドラッグストアも，将来的に地域に根ざした形に変容していく可能性を持っているといえる。

最後に，2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に言及したい。本研究の対象地域である輪島市旧門前町を含む能登半島全域は，地震により甚大な被害を受けた。このとき，日常生活もままならない状況の中で，被災者にとって食料を含む様々な物資の供給源として重要な役割を果たしたのがドラッグストアであった。あるドラッグストアチェーンは，旧門前町を含む石川県の奥能登地方にある全6店舗で，震災翌日の2日には開店し，被災地で物資が不足する中で，地域の住民の生活の支えになっていた[11]。規模が大きく，在庫を豊富に持つチェーン店であるからこそ，災害時でも物資を供給する場所になれたといえる。食料品も含めた物資の供給面で脆弱な側面を持つ中山間地域において，ドラッグストアが災害などの非常時に果たす機能は今後の重要な検討課題である。本稿では，住民の認識という点でドラッグストアがローカル資本のスーパーマーケットとは異なる側面があることを指摘したが，非常時におけるチェーン店の強みといった観点も含め，中山間地域における食料品供給におけるドラッグストアの役割を今後も検討・評価していく必要がある。

謝　辞：2024年1月1日に発生しました能登半島地震におかれまして，被災された皆様にお見舞い申し上げます。旧門前町を含めた被災地の一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。本研究を実施するにあたり，輪島市の浦上公民館の館長をはじめとした浦上地区の皆様，門前公民館の館長，聞き取り調査を行った地区の区長をはじめとした門前地区の皆様，旧門前町内の食料品店の皆様，輪島市役所門前総合支所と輪島市櫛比の庄禅の里交流館の職員の方々にご協力いただきました。末筆ながら心よりお礼申し上げます。なお，本稿は，広津留が金沢大学人間社会学域学校教育学類に提出した卒業論文をもとに再構成し，手代木が加筆修正を行ったものである。

注

1) 北陸財務局が公開している「北陸管内の経済情報（全国財務局会議資料）」に関する資料による．https：//lfb.mof.go.jp/Hokuriku/content/006/2024082901.pdf（2024/10/23閲覧）

2) 本研究は，金沢大学人間社会研究域の「人を対象とする研究」倫理指針に沿った手続きを行った上で実施した．また，食料品充足率調査や聞き取り調査を行う際には，研究の趣旨や調査の目的を口頭及び書面で説明し，同意を得た上で調査を実施した．アンケート調査では，個人が特定されない形で集計することを明記した上で，匿名で回答を得た．

3) 調査は，各店舗で1回ずつ行った．その際に，店舗には調査結果は店の名前を伏せ，店舗を特定できない形に加工したうえで本稿に記載する旨を伝え，周囲の買い物客の迷惑とならないよう十分留意した．調査した期

間は，2023年11月6日から2023年12月8日までである．

[4] 2024年1月1日に発生した能登半島地震の影響により，2024年8月末日時点でも，主な調査対象となったドラッグストア1店舗を含む複数の店舗が営業を停止している．

[5] 対象とした4店舗以外の店舗は，住民が利用する事例が少なく，また食料品充足率も4店舗と比して低かったため，ドラッグストアの役割を検討する本稿の目的に即して省略した．対象としなかった店舗も，地域の買い物環境において重要な役割を担っている可能性がある点には留意する必要がある．

[6] 店舗の概要について, D1は, 店長に実施した聞き取りを，S1，D2，D3は，住民への聞き取り調査や輪島市役所門前総合支所の職員への聞き取り，観察をもとに記載した．

[7] 店舗面積は，高解像度衛星画像からGISの機能を用いて算出した概略値である．

[8] 穴水町の店舗も現在はD1社の店舗となっている．旧門前町のもう1店舗は調査を実施した2023年にはすでに閉店していた．

[9] D1社ホームページより．

[10] 課題への取り組み例としては，北海道を中心に出店するドラッグストアチェーンが中山間地域においてデマンド交通を運行する取り組みを実施している事例が挙げられる．北海道新聞2024年8月1日付記事. https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1045833/（2024/09/22閲覧）.

[11]「天井崩落，従業員はガラスを割って店内に　奥能登のゲンキー全店が震災翌日に営業できた理由」中日新聞2024年3月9日付記事. https://www.chunichi.co.jp/article/865573（2024/09/22閲覧）.

文　献

磯野　誠, 2015：中山間集落住民にとっての買い物の意義：買い物行動の快楽的側面を含めた検討．鳥取環境大学紀要，**13**，129-138.

伊藤千尋，2015：滋賀県高島市朽木における行商利用の変遷と現代的意義．地理学評論，**88**，451-472.

岩間信之・浅川達人・田中耕市・佐々木緑・駒木伸比古・池田真志・今井具子・瀬崎彩也子・野坂咲耶・藤村夏美，2020：縁辺地域における住民の買い物環境評価．*E-journal GEO*，**15**，200-220.

岩間信之・今井具子・田中耕市・浅川達人・佐々木緑・駒木伸比古・池田真志，2018：食料品充足率を加味した食料品アクセスマップの開発．フードシステム研究，**25 (2)**，81-96.

薄井　晴・潘　星彤・呉羽正昭，2021：上田市上室賀地区における高齢者の居住継続要因―購買・交通サービスの供給と高齢者の食料品調達行動に着目して―．地域研究年報，**43**，95-117.

岡橋秀典・陳　林・中下翔太，2015：中山間地域における高齢者の生活環境問題：東広島市豊栄町を事例として．広島大学大学院文学研究科論集，**75**，61-77.

小金澤孝昭・小野洋平，2015：仙台市における高齢者の店舗選択行動～中山地区を事例として～．宮城教育大学紀要，**50**，25-35.

駒木伸比古，2012：日本におけるドラッグストアの成長と再編成に関する一考察．地域政策ジャーナル，**1 (1)**，83-96.

駒木伸比古，2015：愛知県におけるドラッグストアの立地分析 チェーンにおける商圏特性の違いに注目して．経営総合科学，**104**，75-87.

駒木伸比古・李　虎相・永村恭介・小野澤泰子，2008：茨城県筑西市下館地域における食料品小売業の変容と買物行動の現状．地域研究年報，**30**，1431-59.

重冨貴子，2014：ドラッグストア業態の商品構成に見る市場戦略と，収益性強化の方向性分析：ドラッグストア業態の課題と展望．流通情報，**45** (5)，43-52.

重冨貴子，2022：ドラッグストア業態の動向と商品構成の変化，および，企業戦略の方向性：ドラッグストア業態の課題と展望. 流通情報，**54** (1)，13-25.

重冨貴子・加藤弘之，2016：消費者視点によるドラッグストア店舗施策の再検討―ドラッグストアに求められる機能とベネフィット―．流通情報，**48** (2)，24-35.

向囿英雄，2011：買い物弱者対策としての移動販売について．コミュニティ政策，**9**，90-105.